

# ひろば大代

NO. 183

大代公民館

## 施設訪問を終えて

大代地区社協会長 笹木光夫

「特別養護老人ホーム、湯の郷苑を慰問して思うこと」

敬老の日を前にして大代町福祉委員会は、去る九月十一日に町内出身の老人で施設に入って居られる十一名の方々を十二名の参加でそれぞれ慰問しました。桃源の家、眺峰園、福寿園、ピラ大田、湯の郷苑の五ヶ所です。

私と田辺さん、門脇さん、笹木フジエさんの四名が湊長慶さんと原田ヨシノさんを訪ねていった、湯の郷苑は温泉津町上村にデイサービスセンターと共に有り、定員は五十名でデイサービスセンターの一日の利用定員は十五人程度、両方共鉄筋コンクリート造りの平家です。

訪問して所長さんの案内で多目的ホールに入ると原田ヨシノさんが友達と喋って居られ、私が話しかけると少し

は分かった様子でした。そこには仏さんがあり、仏さんを拝んだと言って居られました。

次に湊長慶さんを訪ね、長慶さんは以前より耳が悪くなられた様子だが非常に元気で、私達が「和尚さん元気ですか」とたずねると「何かいい事ないか自分に教えてくれ」とさかんに言っていて居られました。私達が別れを告げると長慶さんの泣き声が部屋からホールまで聞こえ、私達が代の人で別れるのがさみしいのだと言う事をつくづく思いました。私は今度の慰問で六十五才以上の方で身体上又は精神上著しい障害があるため、居室において養護を受けることが困難な人を湯の郷苑では受け入れていることを知りました。働いている人も非常に大変な職業だと言う事が分かりました。私は今後社会福祉事業が向上するよう頑張りたいと思います。敬老を迎えられた皆さん今後とも身体に気をつけられまして楽しい毎日を送って下さる事を祈念します。最後になりましたが、福祉委員の皆さん御協力ありがとうございました。

## 町民体育大会を終えて

大代体協会長 横手昌則

先般開かれました第四十四回大代町民体育大会では皆様のご協力によりまして事故もなく盛会に終わることができ、厚く御礼申し上げます。

昨年の冷夏、今年の異常な暑さによる水不足などそれぞれの方々が大変な思いをされた事と思います。そういった暗さを吹き飛ばす、はつらつとしたプレーでした。結果は次の通りです。

総合優勝 黄色組 一七八点

準優勝 紫色組 一七七点

3位 水色組 一七六点

4位 白色組 一五〇点

5位 赤色組 一四一点

一位の黄色チームは、実に二十一年ぶりの優勝との事、喜びもひとしおと思えます。おめでとうございます。他チームもよく健闘されました。

運営上、至らない点多々あったと思いますが皆様の御意見をお聞かせ下さい。次回の参考にさせていただきます。

十月末か十一月初めに「歩け歩け大会」を予定しています。内容・実施日

が決まり次第ご案内致します。大勢の参加を待っています。

祝優勝！黄色チーム

上市 木村幸司



第四回大代町民体育大会 念願の《優勝旗》を手にすることが出来た。

僕が体協役員のころ、あつてこのと策略を講じたにも関わらず、勝ち取ることの出来なかつた《優勝旗》である。二十一年ぶりの総合優勝・黄組の皆さんで、優勝旗を囲んで祝杯をあげる事が出来る。勝つても負けても年に一度の運動会、優勝した今年こそは黄組の皆さんで一杯飲めるぞ！と喜んだのもつかの間。各自治会それぞれに分かれて缶ビールで乾杯との事。優勝したのに何もなし。黄組にとつては優勝ではなく、たまたま一番点数が良かっただけの事らしい。

優勝して尚まとまりのない我チーム次回に優勝旗を手にするのは娘が成人式を迎える頃のようにある。

—大代の史跡をたずねて—  
天神山城と山田寺（本郷山田の巻）

植松 渡 吉正

○天神山城

県道の本郷バス停留所から市道本郷一号线を北に向かって約二十分位登り詰めると高さ凡そ百メートル程の小山があります。

この山は戦国時代、今から四六〇年前の天文三年（一五三四）には大家上市今西山の大森城々主藤原兼公の弟君公房の居城でありました。

山城の頂上付近には崩れた礎石屋な岩石が点在しており、住時を物語っています。この山城の名前は「天神山城」と言っていました。

この城は天文十二年（一五四三）には戦乱の果てに小笠原家十三代当主長徳（邑智郡川下村の土居城主）の所有となり、城主公房は剃髪して「道満」と名を変えて新庄村の奥地へ隠遁して世を送ったと伝えられています。

城主公房には他に菰口三つ子山城主の公種と大家八幡宮神主の公明の四人兄弟がありました。武将の長男兼公と

次男の公種は近摩郡宅野村（仁摩町）の韓島で切腹して果てたという伝説があります。定かではありません。

○山田寺

昭和五十六年の大晦日であったと記憶していますが、山田の某氏から「圃場整備が終わったので話しますが、整備の作業中、旧私有地の田圃から大きな岩石が三個も出土しました。」というのです。

場所は市道山田線の進入路付近北東側で圃場整備を終えた田圃です。

二つの大岩は一辺が一メートル角の大きさ（波根町九号線沿いの天王平廃寺跡の塔柱心礎石より一廻り小さいもの）のものと一辺五十センチ角のもの（とでいずれも舍利孔（仏陀の遺骨を納める塔の中心柱を入れる枡穴のこと）が彫つてあるというのです。

それは医王山山田寺（浄土宗）の塔柱心礎石にはば間違いないものと思われれます。

「山田寺素師如来略縁起」（旧八代

村国民学校郷土調査本）によれば戦国時代、永正の頃（一五〇四〜一五二〇）天神山城主藤原公房が攝津国入部郡

山田村（大阪府播津市か）の安全寺の薬師如来を守り本尊として深く信仰していた、その薬師如来を天神山城内に移し安置して置きました。しかし、戦火を危惧してか、山田の山麓に一字（堂塔、鐘樓門など）を建立し安置したというのです。

塔柱心礎石があった元の位置を確認すれば山田寺の塔柱心礎石であった証が立ちます。礎石は早急に発掘して「山田寺跡公園」を造成して保存できたら大代の中世史を未来永劫に伝えて行くことが出来ます。皆さん応援して下さい。

塔柱心礎石は五重の塔か、三重の塔の中心柱を建てる礎石のことです。塔の高さを知るには心礎石の柵穴の直径の三十倍あるということです。

### 戦時体験記

「大東亜戦争」

本郷 増田長之助



### ○招集令状と先発

大東亜戦争の招集令状を受け取った

のは勤務地の北朝鮮新義州である。国境である故か親兄弟にも連絡せず、上司に報告、旅行するような格好で極秘裡に平壤搜索隊に誰一人見送る人もなく、こっそりと入隊した。

野戦行きに編入。軍装銃弾薬を支給されると突然「釜山に先行せよ」の命令、入隊したばかりで顔も名前も知らない兵隊さん十名を分隊長として引率することになる。釜山での任務は本隊の受領貨物を埠頭に積み上げ塔載準備を整え、五、六日経た日、「今度は其俣比島ミンダナオ島スリガオに先行せよ」と命令。

第一梯団に編入して指令部の指揮下に入り釜山を出港、心細い限りだ。僅かな人員なので甲板の鉄柱の陰に陣取り、護衛艦を眺めたり夜は南十字星、輸送艦の波にきらめく夜行虫を眺め、戦場に向かうことすら忘れるようだ。敵潜の攻撃もなく無事目的地に到着する。第二梯団で出港した本隊はバレイ海峡で敵潜の魚雷を受け、多数の戦死者を出し、台湾で編成替えして到着は自分が着いてから四十日後であった。

### ○キバウエ分哨

キバウエはカガヤンとダバオを結ぶ主要道路。この警備に当る。毎日のように各部隊が南に北に移動する戦況に関係ありと薄々察せられた。

日暮れに近い或る日、看護婦三十八名が傷病兵と共に到着した。傷病兵の手当、炊事、洗濯する者と手分けをしてテキパキと片付ける白衣の看護婦に感心した。分哨前の草地に大型テント二張りを建てその準備にも当った。

### ○軍参謀長閣下来哨

当時自分は北地区保育隊に分遣され宿舎近くの海岸整備にしていた。午後の日盛りにパンツ姿の土民らしき男が一人、漁船を漕いで海岸沿いに来るのを認め、接岸するよう合図を送った舟が渚に着くと底板がめくられ、ドカドカと八名位の人々が出て来て、驚く中、金モールの将官三名が近況報告をした。この参謀がレイテ島脱出の軍参謀友近美晴少将であった。所望されるままに椰子の実を取って差し出すと、三、四個立て続けに飲み干された。余程喉が渇いていたのか、空腹だったのか？

この一行の中に従軍記者も居て、レ

イテ島の苦戦の様相を話してくれた。レイテ行の自分達は舟艇が爆破され其儘ミンダナオに停まった参謀閣下の上陸後間もなく、敵艦の艦砲射撃を受けて機関砲で打ち込んで来る、土砂が飛び散り、椰子の木はゴウ音と共に倒れ艦砲射撃の威力には肝をつぶした。

#### ○米軍カガヤン上陸

小高い丘に歩哨を配置し、勤務中朝霧の薄らぐにつれ遙か遠い洋上に白い大きな艦が見え、双眼鏡でのぞくと蟻が砂糖に集まるように沢山の敵兵が舟艇で続々と上陸を開始している。

#### ○マンジマ陣地

マンジマは切り立った溪谷に壕を掘った陣地である。敵偵察の命を受け夜間分隊員を指揮して出発。自分達が渡橋すれば撤去する丸太橋を分隊員十名静かに前進、どの位の時が過ぎたか距離はどの辺か、身を隠しての前進ではわからない。

戦車の轟音が聞こえるので待つ事にした。戦車を先頭に両側に兵隊が列をなしてやって来る。二百米位接近したので軽機の掃射をした。驚いた敵は戦車をメクラ滅法に打ち込んで来る。

これにより本隊に敵情が判明したと察し、橋の撤去されているマンジマ河を上流へ上流へと辿り河巾のせまい所を急流に押し流されながらも何とか全員渡河を完了した。米軍も対岸まで迫り銃撃をして来たが何とか任務が果たされた。

#### ○転進

マンジマ陣地对岸の米軍から砲撃が激しくなり、夜暗に転進する。照明弾が打ち上げられ昼のように明るい。射撃もし易いが逃げるのにも都合良かった。陣地撤退後は山中から山中へと敵の空襲を避けての行動で、昼間は木陰で休み夜行動するようになった。

部隊の誘導を命ぜられ、兵隊を一人連れて今晚の拠点まで偵察、岐路には木を種たえ枝を折るなどして目印を作り夜間部隊を誘導、拠点から拠点へと四日位続いて、疲れと寝不足で体に異常を感じるようになった。

誘導任務を解かれた後は病弱兵を引率して部隊の後方を追従して行く。歩行困難の戦友を励まし、後方から迫ってくる米軍にも気を配るが、悪い道で山中でもあり思うように前進出来ず、

遂には病死する戦友も出た。穴を掘り懇ろに葬り前進を続けた。然し体力に限界があり、遂に自分も栄養失調、脚氣、マラリアを併発して歩行困難となった。自決も勧められたが意識が確りしているので独り山中に取り残され、部隊は行ってしまった。

大樹の根元に座り込み夜を明かすこんな惨めな最後かと思うと、親兄弟の顔が次々と浮かび涙が流れた。

何刻かして全身夜露に濡れ、冷えを感じて目覚めた。そして何とか本隊に追いつかねばと意を決して踏み倒された道草や山草を這うように探し、一步一步全力をつくして歩き続け漸く本隊に追従した。

#### ○投降

山の頂上近くの木陰に草葦の小屋を作り谷川の水や昆虫を食べ飢を凌いだ。敵機が飛来してビラを撒く。戦況は勿論日本国内のニュースも沢山書かれていた。やがて日本の敗戦を報ずる師団長のサイン入りビラに速かに最寄り米軍に投降するよう記事になっていたが敗戦を信じない我々は敵の謀略だと一笑に付し司団長のサインを模写して

フザケて居た。敗戦が確実と知り、投降することになり最後の宮城通洋をし銃、弾薬、将校の家室だという日本刀も穴を掘り埋め米軍陣地に投降した二十年九月十七日であった。

○投降後

体の衰弱がひどく米軍野戦病院に収容されたその道筋、現地人の女、子供が道の両側から大声で叫びながら投石して来る。敗戦の惨めさ、悲しさを痛い程身に感じた野戦病院で二世の米軍将校が日本語で話しかけて来る。懐かしい感じがする。迎えの舟が横須賀を発ったからやがて到着すること。早く退院して居らねば積み残されると思い元気に振る舞って退院した。

やがて我々はレイテの赤茶けた山肌海岸線に並ぶ夥しい重火機を見てよくもここまで戦って来たものだと思つづくと思う。

昭和二十年十二月十四日レイテを出港、横須賀港に上陸し、検査等で十二月三十一日列車に揺られ、焼野原の都市を車窓から眺め故郷に向かう。

あすなる句会

下谷 尾崎三枝子

昔日のお手植松の月白し  
大屋根の月円かなり句座の席

下市 渡 綾子

心浮く句会の用意月今宵  
尾の長さ獣横ぎり望の月

上飯谷 武田鳥子

奥出雲山河照らせり月今宵  
名月や女主の広き家

柿田 横手いちえ

猪おどしの点滅灯や望の月  
雲つことも胸に秘めおき月今宵

椿 花田時子

芒の穂障子に写し月明り  
寄り添えど尚満ち足りぬ十三夜

椿 柿丸寿枝

わだかまるものみな捨てて月今宵  
名月やほどよく雲の動きけり

八反田 森 信子

名月と記して筆の走らしむ  
廃校の日日近し秋桜

ゴキブリ団子の作り方



猛暑の後遺症で今秋はゴキブリが大発生！気温が高いとふ化する期間が短く産卵回数が増えるため、ハウサン団

子でゴキブリを退治しましょう。

ハウサン五百g 玉ねぎ三百g（すりおろす）小麦粉一四〇g 砂糖三五g 牛乳大きじ一杯 の材料を混ぜ合わせ（玉ねぎの汁気で固さを調節）団子に（直径二センチで五十個位）して盆に並べて二三日天日で乾かし出来上がり。初めの年は冬と夏、次の年から冬に一度置くだけで大丈夫！続けて毎年することが大切です。

（上市 笹田サチエ）

\*\*\* 十月の行事予定 \*\*\*

◆2日（日）高山登山道草刈

◆13日（木）ダイヤゾーンボール教室

◆16日（日）福祉弁当

◆25日（火）健康相談午後一時半

◆27日（木）ダイヤゾーンボール教室

◆31日（月）幼小中公民館和教育研修会

★—★ おしらせ ★—★

◎大代公民館から

先日寿会皆様に公民館周辺の草刈り

◎社協大代支部から

檀松 山口正實様より

大代町仏教会・寿会・婦人会様より

金一封の御寄付を頂きました。共に

御厚く御礼申し上げます。